

香取秀真 （ほりう） 鑄金工藝家、歌人。明治七年一月一日千葉縣生れ、昭和二十九年一月二十一日歿（八七歳一九歳）。本名秀治郎。號・筆名々々、はんこ、ほりま、保都萬、保都麻、六齋、加止利、句波文人、同歡山房、天之真神之家、寶川万、寶豆萬、惠古、本万、梅花、梅花亭、梅華亭、真、響仁樓、秀、總之人、船徳郷民、香取、香取秀治、香翁等。明治二十七年東京美術學校鑄金本科卒。四十二年東京鑄金會、昭和二十一年帝展工藝部を創設。四年帝國美術院會員、九年帝室技藝員、十二年東京美術校教授、二十八年文化勳章受章。歌人としては根岸短歌會發會以來の正岡十規門下。梵鐘の人間國寶（重要無形文化財保持者）香取正彦はその長男。

著書 『（好）山陰めぐり』 （濱瀬新撰）合著、大正九年八月二十日自刊、愛

知・發行所堀江清足）、『わの草』 （紫田陽光） （櫻堂） 昭和四年四月二

日十規庵歌會）、『安民』（本名、石得文太郎共編、昭和四年五月十

日自原坦刊）、『（子規竹の里歌）』（解題、昭和九年十一月十九日葦道

治郎刊、政教社出版部）、歌集『（天之真神）』（昭和十一年四月二十五

日學藝書院）、『東大寺大佛の鑄造（就い）』（昭和十一年二月七日

七日會『（なりのめ）』別刊）、『金工史談』（昭和十六年十一月七日櫻書

房）、『奈良叢記』（合著・（神川辰藏）編著、昭和十七年一月十日大阪

・巖々堂書店）、『日本の鑄金』（昭和十七年七月二十日三笠書房

『現代叢書』）、『還暦以後』（昭和二十一年一月五日長野・香取秀

真先生古稀紀念會。再刊、二十二年十一月二十日長野・料野雜記社）、

『香取秀真全歌集』（昭和二十一年四月二十五日中央公論社）等。